

学校名	山口市立良城小学校
-----	-----------

1 学校の概要

校長名	山本 晃久	児童・生徒数	949	学級数	32	教職員数	47
教育目標	<div style="text-align: center;"> <p>経営コンセプト</p> <p>「地域に漂として立つ学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学ぶ喜びや楽しさを味わい続ける子どもがいる学校 ○ 我が子の成長を託され、保護者から頼られる学校 ○ 地域から賞賛され応援される学校 ○ 地域から頼りにされる学校 ○ 人権感覚と向上心、豊かな心に満ちた教師がいる学校 <p>↓</p> <p>学校教育目標</p> <p>子どもが輝く学校</p> <p>めざす児童像</p> <p>歌声いっぱい！あいさついっぱい！ ひたいに汗してがんばる子！</p> <p>教師 ← → 家庭地域</p> <p>重点目標</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>自分の成長がわかる学び方の定着</p> <p>↓</p> <p>喜び・楽しさ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>きまりやマナーを守る意識の高揚</p> <p>↓</p> <p>納得・行動</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>基本的な生活習慣の徹底</p> <p>↓</p> <p>食育・運動</p> </div> </div> <p>教育諸活動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <ul style="list-style-type: none"> ☆0の日 ☆読書指導 ☆朝学 ☆集会活動等 <ul style="list-style-type: none"> ☆校内研修 ☆テーマ研修 ☆授業研究 ☆初任者研修 </div> <p>↑ ↓</p> <p>具体目標</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>確かな力</p> <p>確かな力を身に付け、学びが大好きな子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の徹底 ○授業づくりの工夫 ○学習意欲と自己肯定感の伸長 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>豊かな心</p> <p>思いやりとけじめのある、さわやかな子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なかよし班活動の推進 ○あいさつ運動の推進 ○校内環境の整備 ○人権感覚の高揚 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>たくましい体</p> <p>健康で明るく、たくましい子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体育指導の充実 ○外遊びの奨励 ○食育の推進 ○健康・安全教育の充実 </div> </div> </div>						
学校の状況	<p>【地域の特色】</p> <p>吉敷毛利氏の城下として、藩校「憲章館」の威風を継承する文教尊重の気風が漂う落ち着いた地域で、県市の公共施設が校区内に多数ある恵まれた教育環境にあり、学校教育に対する関心は高く、協力的である。</p>						

	<p>子どもの安心安全に向けた、地域での見守り活動の「セーフティネット」を、県内でもいち早く立ち上げ、地域交流センターや地域づくり協議会を中心にした、地域単位での安心安全な町づくりを推進している。</p> <p>平成22年度はPTA主催の「りょうじょうふれあいフェスタ」において、地域交流センターとの共催により、地域の方々とともに開催することができ、本校が地域の活性化にも一役買うことができたところである。</p> <p>【学校の特徴】</p> <p>校区は、山口市中心部から北西に位置し、東及び南は湯田・大歳地区に、北は美祢市に接する南北に広い土地である。以前は、平地に水田が広がる農村地域であったが、十数年来の宅地開発により人口が急増し、平成13年度には県内一のマンモス校になった。</p> <p>一時的に問題行動を起こす児童も見られたため、心の教育の一環として、図書室の整備充実による読書活動の推進や、学級の児童数分備えているコンピュータによる情報教育の推進等に取り組んできた。</p> <p>その他、全校縦割り班活動による異年齢集団でのふれあい活動や合唱団の活動などを通じ、より豊かな人間関係づくりと心の教育を推進している。</p> <p>とりわけ音楽教育・体育教育をとおした児童の心の教育及び生活規律の確保には力を入れており、合唱団は平成18年度以来全国合唱コンクールにおいて毎年中国や全国の大会出場を果たし、平成18年度には全国大会において銀賞を獲得した。また、平成20年度以来タグラグビーチームが全国大会に出場し、平成20・21年度は連続準優勝を遂げた。平成22年度1月も中国地区大会で優勝し、全国大会出場の切符を手に入れている。</p> <p>このような実績を上げるため、日常の音楽、体育、道徳教育に積極的に取り組み、他の児童も自信や誇りをもって地域であいさつをしたり、地域行事に参加したりすることができるようになってきている。</p>
<p>SWOT 分析による 長所・ 短所</p>	<p>【長 所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 部会で話し合われたことがきちんと学年に伝わり指導されている。 ○ 指導力のある教職員が多く、専門性を生かして研修を深めることができている。 ○ 各分掌が職務分担や内容を自覚し、堅実な活動を展開している。 ○ 大規模校だが、組織でまとまる力がある。 ○ 教職員研修の協議には積極的に参加する。 ○ 職場が和気藹々としており、クラスの悩みなどを同僚に話しやすい雰囲気がある。 <p>【短 所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の課題、活動等に関する情報の共有化を促す必要がある。 ○ 組織力の活用と向上を意識して実践できる中堅教員を育成する必要がある。 ○ 職員個々が自らの能力を発揮することにより学校運営への参画意識を高める必要がある。
<p>研 究 テーマ</p>	<p>教職員個々の学校運営参画意識を高揚し、学校力を高める組織活動の見直し</p>

2 1年間の実践研究の取組状況

22年	
5月	企画会議
7月	教職員対象アンケート(記述式)
8月	企画会議
11月	教職員対象アンケート(記述式)
12月	企画会議
23年	
2月	教職員対象評価アンケート(選択式・記述式)

3 実践研究の内容と成果

[各項目における実践研究内容とその成果]

(1) 組織力の強化に係る取組

ア 複数教頭の位置付けと役割分担の見直し

本校は、平成17年度から教頭が複数配置されている。複数配置されていても、それぞれの教頭が授業を行うことから、実施授業時間数を鑑み、これまでは、どちらかといえば業務量という観点から業務分担を行っていた。

今回の実践研究の中で、果たすべき役割という視点を加えた見直しを図り、第一教頭には教職員の資質向上や学校運営を中心とした分担に、第二教頭には外部団体との連携と学校管理を中心とした分担へと業務を見直し、いわば「量から質」への転換を図った。

【第一教頭】

【第二教頭】

〔変更前の業務分担〕

- ・校務運営、校務分掌の調整
- ・行事計画、行事予定
- ・教職員サービス
- ・就学関係 ・文書管理
- ・校内諸規定
- ・小中連携 ・幼保小連携
- ・PTA関係行事、事務
- ・外来者対応、その他渉外事務

- ・施設設備の管理・貸与
- ・校内安全点検 ・修繕営繕
- ・防災計画 ・避難訓練
- ・不審者対応訓練
- ・防火器具、用具管理
- ・火気管理
- ・盗難防止
- ・校地の環境整備、美化

〔改善後の業務分担〕

- ・校務運営、校務分掌の調整
- ・行事計画、行事予定
- ・教職員サービス
- ・就学関係 ・文書管理
- ・校内諸規定
- ・外来者対応、その他渉外事務
- ・**諸調査**
- ・**児童支援、職員研修への指導助言**

- ・施設設備の管理・貸与
- ・校内安全点検 ・修繕営繕
- ・防災計画 ・避難訓練
- ・不審者対応訓練
- ・防火器具、用具管理
- ・火気管理
- ・盗難防止
- ・校地の環境整備、美化
- ・**小中連携 ・幼保小連携**
- ・**PTA関係行事、連絡調整**

イ 中堅教員のリーダー意識の高揚と資質の向上

(ア) 分掌リーダーと教頭のコミュニケーションの活性化

本校では、毎週木曜日の放課後を分掌等の諸会議の時間にあてているが、十分時間をかけて協議検討を行うことができるという状況ではない。皆が集まることができる時間が確保されれば、短い時間であっても小会議を頻繁に行いながら、教職員の知恵を出し合ったり、共通理解を図ったりしている。

このような環境にあっても、個々の教職員が自分の思いを積極的に発露し、知恵を出し合い、子どもにとってより価値の高い教育活動を創造することが大切である。

そのために、学校運営の要である教頭という職をとおして、学校の運営を支えている中堅教員のより一層の資質の向上を図り生産性の高い組織運営を目指すとともに、人材育成に努める必要がある。

各種部会を開催するに当たり、分掌の部長とのミーティングをこまめに取りコミュニケーションを活発に行いながら、運営の効率化と時間短縮を図るとともに、リーダーとなる教員の組織運営としての見方や考え方を広げていくように努めた。

(イ) 中堅教員のリーダー性の向上

本校の長所の一つに「指導力のある教員が多く、専門性を生かして研修を深めることができる。」ということを挙げている。

専門性の高い教員を長期休業中の校内研修の講師として、新教育課程において導入される体育科新内容の実技講習や授業の組み立て方、図画工作における鑑賞教材の取り扱い方、危機管理の実際と課題等、ワークショップ形式の校内研修をとおして、リーダー性の向上を図った。



〔図工鑑賞教材研修〕



〔ワークショップ型校内研修〕

項目	チェック項目	月	日
1	協議の目的、議題は明確か		
2	協議の目的が明確に決まっているか		
3	各分掌の業務内容が明確に決まっているか		
4	協議の目的が明確に決まっているか		
5	協議の目的が明確に決まっているか		
6	具体的な説明をしているか		
7	各分掌の業務内容が明確に決まっているか		
8	出た意見が取り入れられているか		
9	出た意見が取り入れられているか		
10	内容が子どもに伝わりやすいか		
11	今後の改善目標が明確に決まっているか		
12	協議の目的が明確に決まっているか		
13	協議の目的が明確に決まっているか		
14	協議の目的が明確に決まっているか		

〔校務分掌リーダーチェックリスト〕

また、各種部会において、リーダーとして大切にすべき事柄を、左のチェックリストにまとめ、機会あるごとに不十分な点を確認しながら自らの改善を図るよう促し、コミュニケーションの円滑化と内容の充実に努めた。

ウ 学校事務共同実施の効果的運用

◇ 事務職員の職務内容の見直しと学校運営参画意識の高揚

(ア) 保護者徴収金処理業務の移管と管理の効率化

これまで、保護者から徴収する給食費、PTA会費、教材費のうち、教材費は、徴収業務及び支払い業務を学年会計担当が行い、金銭管理は事務職員が行うという方法を取っていた。

今回の実践研究の中で、事務の共同実施における標準的業務内容による見直しから、保護者徴収金の全てを銀行引き落としによる学校事務職員扱いに一本化することにより、教員の負担軽減を図った。

これにより、本校の事務職員は業務負担が格段に増したが、概ね月1回の巡回訪問で本校を訪れる拠点校事務職員に、サービスに係る事務処理を依頼することにより、本校事務職員の負担軽減を図り日常業務を行っている。

このことにより、学校事務職員が企画委員会に参加することとなるとともに、教員が児童と向き合う時間を確保することにもつながった。

(イ) 若手事務職員の資質能力の向上

本校には複数の学校事務職員（主査・主事）が配置されている。

日々の学校事務の事務分担の中で、ベテラン主査とのコミュニケーションと指導助言及び業務の相互補完等により、主事が広い経験を積むことができ、資質能力が格段に向上してきている。

【成 果】

- 教頭の職務を量的な分担から質的分担に整理し直すことにより、各教頭の意識の方向性が定まり、職務遂行意識が高まるとともに、お互いの職務内容に対してサポート意識が高まり、お互いが補完しあう協働体制をより一層強めることができた。
- 教頭が積極的に分掌リーダーや中堅教員に働きかけコミュニケーションを活性化させるとともに、些細な内容についても教頭との打合せを密にすることにより、中堅教員の組織運営上の視野が広くなり、全校の共通理解がさらに図られるようになった。
- 分掌リーダーのリーダー性や教職員の特性を生かす取り組みにより、教職員が身近な人間関係の中で資質を向上させることができ、また、リーダーとしても自覚が高まり一層自信をもって学校運営に参画できるようになった。
- 学校事務の業務内容の見直しと共同実施により、保護者徴収金やサービス管理に関するチェック機能が強化され、よりの確で適正な事務処理を行うことができた。
- 事務の共同実施によって生まれたゆとりにより、学校運営に関する改善を事務の立場から提案することができるようになるとともに、若手事務職員の育成にも十分寄与することができた。

【課 題】

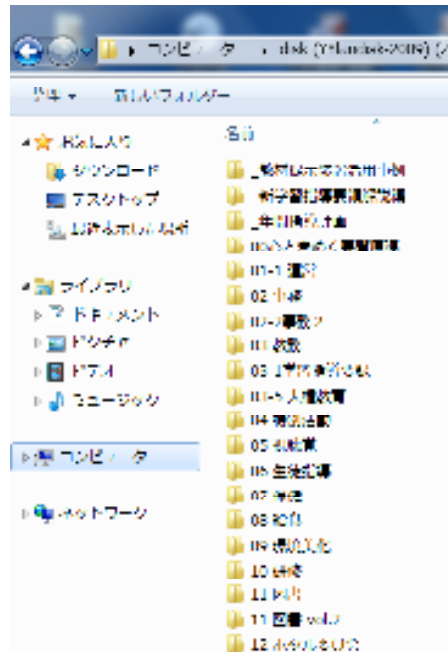
- 本県では、教頭が授業を受け持つことにより教員の負担軽減に寄与しているが、日常の授業を行いながら一方では教職員の資質向上に向けてコミュニケーションを活性化し、また適切に指導助言しなければならない、自らの事務処理は後回しになることが多いため、教頭の負担は大きくなりすぎている。教頭の業務の効率化が求められる。
- 分掌部会での協議内容は職員連絡会を通じて詳細に報告されているが、学校規模が大きいため、他の学年でどのようなことが起こり、どのようなことが進められているのかという横のつながりとしての情報共有の場の設定に関して、さらに努力が必要である。

(2) ICTの活用等による情報共有、業務改善に係る取組

ア 校務分掌フォルダの共有化

教職員の資質向上のためには、多様な校務分掌を広く経験することが大切である。

教職員が他の分掌を受け持っても、これまでの計画書や報告、反省や改善意見等を確認することができ、職員も進行中の行事の詳細等が画面上で確認でき共有できるように、校務分掌の共有フォルダによる管理を行っている。



〔校務分掌共有フォルダ〕

イ ICTを活用した児童理解

通常学級に配慮を要する児童が在籍しており、本校のような大規模校ではかなりの数になる。

全校の教職員が、どの学級に指導に入ってもこの子どもたちに対して個別指導を行うことができ、廊下で出会っても声かけによる励ましができるように、年に2回程度全教職員による児童理解の場を設定している。

その際にICTを活用し、個々の児童の顔や特性を視覚化したデータを共有し、担任の状況説明を加え、児童への接し方について共通理解を図っている。

ウ ICTを活用した教職員評価に係る個人情報の管理

教職員個々と校長のみが共有できる個人フォルダを設定し、教職員評価に係る個別の目標シート及び自己評価シートを保存することによって、教職員評価に係る個人情報を管理するシステムを立ち上げた。

これらのシートに進捗状況や指導助言を加えたり、自己評価を行ったりしたものを個別面談で活用することとしている。

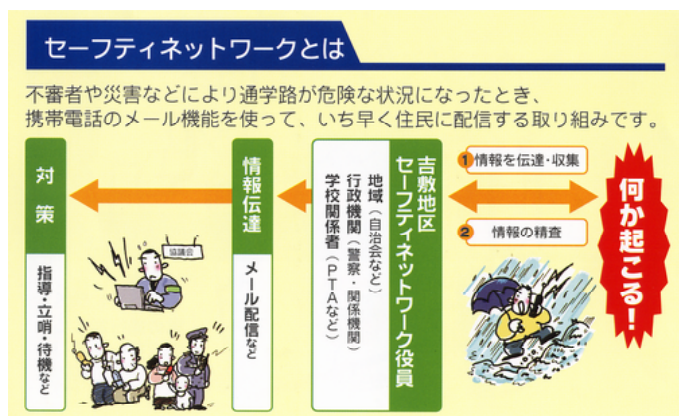
エ ICTを活用した学校評価

学校評価における保護者アンケートは、これまでは回収後集計作業を職員の手作業で行っていたが、これをマークシート方式に変え、回収したアンケートをスキャナで読み取りを行い集計ができるシステムを構築し、短時間で集計や分析が可能になるように改善した。

オ 吉敷地域セーフティネットワークシステムの活用

不審者等の事案や大水等の自然災害発生により通学路が危険な状態になった際における緊急時の情報伝達手段として、情報システムの活用を検討し、携帯電話サービスを利用したPTA通信を立ち上げた。

その後児童の登下校の安心・安全を吉敷地域全体で確保するため「吉敷地区セーフティネットワーク協議会」が立ち上がり、山口市内でいち早く「吉敷地区セーフティネットワークシステム」の運用を開始した。



〔セーフティネットワークとは〕

本校のシステムで配信した保護者へのメールを地域交流センターが受信し、必要に応じて地域交流センターから吉敷地区セーフティネットワークシステムに加入している地域住民全体に情報発信するものである。

年1回このメールシステムを利用し、学校とPTA、地域が合同で不審者対応を目的とした模擬訓練を実施している。

【成 果】

- ICTを多様に活用することにより、分掌事務の能率が向上してきた。
- 人数が多く、多様な特性をもつ児童の理解にICTを活用することにより、効率的に共通理解が図られ、教職員と児童の日常の交流に役立っている。
- 教職員評価における個人目標の管理において、教職員が記入しようと思った時に記入でき、目標をその都度確認できる点では、教職員が主体的に取り組み易くなっている。また、用紙の節約にも寄与している。

【課 題】

- ICTの活用については、利用の仕方や利用頻度に個人差が大きく、誰もが十分使いこなすことができるように研修をする必要がある。
- また、セキュリティの側面からもさらに改善し、個人情報の保護と管理に努める必要がある。

(3) 地域やPTAとの連携、外部人材の活用に係る取組

ア 幼稚園との連携

(ア) 交流による小1プロブレムの解消

本校には、約30の関係園から児童が入学してくる。その内の多くの児童が在籍する吉敷幼稚園、おおとり保育園、旭幼稚園、めばえ保育園の鴻南地区の関係園と、以下の交流事業を行い、小1プロブレムの解消に努めている。

・学校プールの開放

幼稚園に小学校のサブプールを開放し、園児が水遊びを楽しむ。

・学校給食見学会および試食会

幼稚園・保育園の保護者と園児を招き、1年生の給食準備の見学と試食会を行う。
栄養教諭から入学に向けた食についての準備等に関する助言も行う。

・校内音楽会公開リハーサルの見学

校内音楽会前日の1年生によるリハーサルを園児が見学する。

(1年生が招待状を作成し、園児を招待する。)

・園児の授業参観

1年生の通常の授業を園児が参観する。



〔学校プールの開放〕



〔給食見学会及び試食会〕



〔校内音楽会公開リハーサル〕



〔授業参観〕

イ 中学校との連携

本校児童は、隣の大歳小学校の児童とともに鴻南中学校に入学する。

中1ギャップの解消に向け、大歳小・良城小・鴻南中学校の3校で鴻南地区学校連絡協議会を構成し、年3回の協議会を開催している。

1回目は、学校関係者及びPTAが集まり、新年度を迎えた中学校1年生の様子や、各校の状況、活動の具体等について検討する。

2回目は、本校教職員が中学校を訪問し、入学した生徒の様子を観察し、顕著な変容や指導の在り方等について協議を行う。

3回目は、中学校の教職員が来校し、6年生対象に授業を行う。

この3回の連絡協議会を経て、児童は中学校の入学説明会に臨むことになる。

ウ 地域との連携による学校運営の活性化

(ア) 登下校の安心・安全の確保

「吉敷地区セーフティネットワーク協議会」の協力により、不審者や自然災害発生時における児童の安心・安全を確保していることについては、前述した。

同じく地域の老人会の方々によって登下校時の交通指導も支援をいただいている。

また、この活動に対する本校児童の感謝の意を込め、毎年知恵をこらしたお礼の品をプレゼントし、相互交流を行っている。

さらに、吉敷地域の住人に、右のロゴが入った腕章やウインドブレーカーを配付着用することにより、児童が安心して地域の大人と挨拶や会話を楽しむことができるようにし、児童の健全育成を図っている。



〔老人会による登下校指導〕



〔吉敷人（よしきびと）のロゴ〕



〔生け花教室の展示〕

(イ) 地域との共催による「りょうじょうふれあいフェスタ」の開催

本校では、これまでPTA単独で保護者と子どもがふれあい、1日を楽しく過ごすフェスタを開催してきている。

本年度から、吉敷交流センターからの支援を受けながら、交流センターで常時活動しているサークル等広く地域に呼びかけ発表の場を提供し、吉敷地域全体で楽しむことができるイベントへと発展させている。

(ウ) 地域の人材活用による教育活動の充実

次のような地域の人材活用をし、日常の学習指導を充実させ質の向上を図っている。

・ 読書活動

保護者のボランティアによる週1回の読み聞かせ
ストーリーテリングボランティアによる月1回のお話会

・ 福祉体験活動

市福祉協議会と地域の福祉ボランティアによる4年生の福祉体験活動

・ 昔の遊び体験活動

吉敷地区老人会による1年生への昔の遊び体験活動

・ 歯磨き指導

山口高等歯科衛生士学院の学生による全学年・学級への歯磨き指導

エ 外部指導者による学習指導の充実

その他、次の外部指導者を活用した学習指導により、児童の学習内容の習得を図るとともに、教師の指導技術の向上を図っている。

- ・ 「薬物乱用 ダメ、ゼッタイ教室」による薬物乱用防止教室
- ・ 「国体選手等ふれあい教室」による高校生の陸上競技指導
- ・ 「スポーツ選手活用体力向上事業サッカー教室」によるサッカー指導
- ・ 「食育」「遊び・スポーツ」「健康教室」出前授業による体育指導
- ・ 「地域スポーツ人材の活用実践支援事業」による水泳指導・跳び箱指導
- ・ 中国電力「わくわくEスクール」によるエネルギー利用に関する指導

【成 果】

- 幼稚園・保育園との連携をできるだけ相互交流が可能になるよう働きかけることにより、園児も保護者も学校の様子がよくわかり安心して入学させられるという良好な評価を受けている。
- 中学校との連携において、特に中学校の教師が小学校で授業を行うことにより、多くの児童の中で不安が解消されるようである。
- 現在地域の自治組織が再編の途中で、今後一層協働のまちづくりが推進される中で、地域の自治組織と学校の連携の在り方について、進んだ関係をつくりだすことができた。
- 現在多くの出前授業が存在するが、授業における単元構成の中にうまく組み込むことにより、一層の学習内容の定着を図ることができ、専門性の高い指導から、教師もその技術を磨くことができた。

【課題】

- 本校に入学する児童に関する幼稚園・保育園は約30園ある。入学する児童が数名の園が多くあり、これらの園との連携も深めていくことが必要である。また、特別な配慮を要する児童を把握し、適正就学を推進するためには幼保小の連携をさらに広げていく必要がある。
- コミュニティ・スクールの実施が強く求められている昨今である。
現在様々な面で地域と「つながり」を持ち、教育活動に生かしているが、今後コミュニティ・スクールを実施するに当たり、学校と地域がどのような位置付けであることが両者を生かすことになるのか検討する必要がある。

4 今後の取組内容

[実践研究の成果・課題を受けて、今後継続的、発展的に取り組む内容や課題について]

- (1) 新学習指導要領の下で教育課程が全面实施される。
学習内容や授業時数が増え、教職員の多忙感はさらに増すことが予想される。このような中では、当然学校行事の見直し等がさらに求められてくるであろう。全ての教職員が学校運営を行うという意識を持ち、組織を上げて子どものために思い切った決断が行えるような組織集団に高める必要がある。そのためには、幅広く情報を共有し広い視野から判断できるように教職員間のつながりを深めていく必要がある。
- (2) 地域の組織は、現在「地域づくり協議会」が発足し、協働のまちづくりのための組織づくりの過渡期である。
学校と地域がどのような関係になれば、本校が地域の中で凜として立ち続けるか、模索・検討を続けながら連携を密にしていきたい。
- (3) 今後環境への配慮と取組はさらに加速することが考えられる。そのような中においてICTは大きな役割を担うことになる。
また、現在の児童の経験という側面から考えると、電子教科書、電子黒板に始まるICT活用による学習も加速的に進むであろうし、反面、児童の直接体験は減り、学校教育による多様な経験をとおした心の教育が重要視されることとなろう。
このような相反する観点から、教師としてICTの活用はどうあるべきかを教職員で共通理解しながら、一層効果的なICT活用方法を見いだしていく必要がある。